パフォーマンスインベントリページを使用してパフォーマンスを監視します

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/performance-checker/concept_monitor_performance_using_object_performance.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

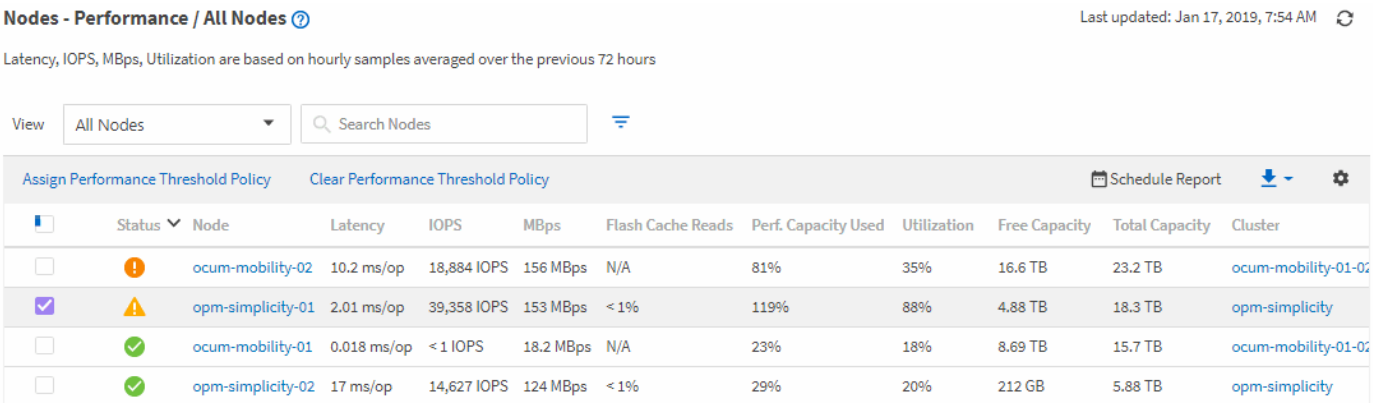
パフォーマンスインベントリページを使用してパフォーマンスを監視します . . . 1
Active IQ Unified Manager . . . 1
のパフォーマンスインベントリページを使用してオブジェクトのパフォーマンスを監視する
Active IQ Unified Manager . . . 1
ですべてのストレージオブジェクトのパフォーマンスインベントリページを表示する
パフォーマンス：すべてのクラスターの表示 . . . 2
パフォーマンス：全ボリューム表示 . . . 2
パフォーマンス：すべてのアグリゲートビュー . . . 3
パフォーマンス：すべてのノードの表示 . . . 4
パフォーマンス：すべてのストレージVMの表示 . . . 5
パフォーマンス：すべてのLUNの表示 . . . 5
パフォーマンス：すべてのNVMe名前空間の表示 . . . 5
パフォーマンス：すべてのネットワークインターフェイスの表示 . . . 6
パフォーマンス：全ポート表示 . . . 6
パフォーマンス：QoS ポリシーグループビュー . . . 6
パフォーマンスインベントリページのコンテンツを絞り込む . . . 7
Active IQ Unified Manager でパフォーマンスインベントリページのコンテンツを絞り込む . . . 7
Active IQ Unified Manager のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでの検索 . . . 8
Active IQ Unified Manager のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでデータを並べ替える . . . 8
Active IQ Unified Manager . . . 9
のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでデータをフィルタリングする
Active IQ Unified Manager のクラウドへのデータ階層化に関する推奨事項を確認する . . . 10

パフォーマンスインベントリページを使用してパフォーマンスを監視します

Active IQ Unified Manager のパフォーマンスインベントリページを使用してオブジェクトのパフォーマンスを監視する

[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページには、そのオブジェクト タイプ カテゴリ内のすべてのオブジェクトのパフォーマンス情報、パフォーマンス イベント、および健全性が表示されます。これにより、クラスタ内の各オブジェクト（すべてのノードまたはすべてのボリュームなど）のパフォーマンス ステータスの概要をひと目で確認できます。

[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページには、オブジェクト ステータスの概要が表示されるため、すべてのオブジェクトの全体的なパフォーマンスを評価して、オブジェクトのパフォーマンス データを比較できます。[オブジェクト インベントリ]ページの内容は、検索、ソート、フィルタリングによって絞り込むことができます。パフォーマンスの問題があるオブジェクトをすばやく特定してトラブルシューティング プロセスを開始できるため、オブジェクトのパフォーマンスを監視および管理する場合に役立ちます。



パフォーマンス インベントリ ページのオブジェクトは、デフォルトでは、オブジェクトのパフォーマンスの重大度に基づいてソートされます。新しい重大なパフォーマンス イベントが報告されたオブジェクトが最初に表示され、そのあとに警告イベントが報告されたオブジェクトが表示されます。これにより、対処が必要な問題を簡単に特定できます。パフォーマンス データはいずれも72時間の平均値です。

オブジェクト名列のオブジェクト名をクリックすることで、オブジェクトインベントリのパフォーマンスページからオブジェクトの詳細ページに簡単に移動できます。例えば、Performance/All Nodes インベントリページで、「Nodes」列のノードオブジェクトをクリックします。オブジェクトの詳細ページには、選択したオブジェクトに関する詳細な情報が表示され、アクティブなイベントを並べて比較することもできます。

Active IQ Unified Manager ですべてのストレージオブジェクトのパフォーマンスインベントリページを表示する

パフォーマンス インベントリ ページでは、クラスタ、アグリゲート、ボリュームなど、使用可能な各ストレージ オブジェクトに関するパフォーマンス情報の概要を確認できます。パフォーマンス オブジェクト詳細ページへのリンクを使用して、特定のオブジェクトの詳しい情報も確認できます。

ビュー ページ内のオブジェクトは、デフォルトでは、イベントの重大度に基づいてソートされます。重大なイベントが報告されたオブジェクトが最初に表示され、そのあとに警告イベントが報告されたオブジェクトが表示されます。これにより、対処が必要な問題を簡単に特定できます。

これらのページからデータを、*Reports*ボタンを使用してカンマ区切り値(.csv）ファイル、Microsoft Excel ファイル(.xlsx）、または(.pdf）ドキュメントにエクスポートし、エクスポートしたデータを使用してレポートを作成できます。さらに、ページをカスタマイズした後、*Scheduled Reports*ボタンを使用して、定期的にレポートを作成してメールで送信するようにスケジュール設定することもできます。

これらのページのフィールドは、すべてカスタム ビューとレポートで使用できます。一部のフィールドは関連ページにリンクされており、より詳細な表示が可能です。

パフォーマンス：すべてのクラスターの表示

「パフォーマンス：すべてのクラスタ」ビューには、Unified Manager のインスタンスによって監視されている各クラスタのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。このページでは、クラスタのパフォーマンスを監視したり、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

オブジェクトインベントリページ上の任意のオブジェクトに対して、*パフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て*ボタンと*パフォーマンスしきい値ポリシーのクリア*ボタンを使用して、パフォーマンスしきい値ポリシーを割り当てたり、しきい値ポリシーをクリアしたりできます。

以下は、パフォーマンス：すべてのクラスタービューにおける重要なフィールドの一部です。

- クラスターFQDN：クラスターの完全修飾ドメイン名（FQDN）。
- IOPS：クラスターにおける1秒あたりの入出力操作数。
- MB/s：クラスターのスループット。単位はMiB/秒。
- 容量フィールド：空き容量と総容量（GiB単位）。
- ホスト名またはIPアドレス：クラスタ管理LIFのホスト名またはIPアドレス（IPv4またはIPv6）。
- OSバージョン：クラスターにインストールされているONTAPソフトウェアのバージョン。

> クラスタ内の各ノードに異なるバージョンのONTAPソフトウェアがインストールされている場合は、最も低いバージョン番号が表示されます。各ノードにインストールされているONTAP バージョンは、「パフォーマンス：すべてのノード」ビューで確認できます。

- しきい値ポリシー：このストレージオブジェクトで有効になっている、ユーザー定義のパフォーマンスしきい値ポリシー（または複数のポリシー）。省略記号（…）を含むポリシー名にカーソルを合わせると、ポリシー名全体または割り当て済みのポリシー名の一覧が表示されます。パフォーマンスしきい値ポリシーの割り当てボタンとパフォーマンスしきい値ポリシーのクリアボタンは、一番左にあるチェックボックスをクリックして1つ以上のオブジェクトを選択するまで無効のままです。

パフォーマンス：全ボリューム表示

「パフォーマンス: 全ボリューム」ビューには、Unified Manager のインスタンスによって監視されている各 FlexVol ボリュームと FlexGroup ボリュームのパフォーマンス イベント、カウンター データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、ボリュームのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

特定のオブジェクトのレイテンシとスループットを分析したい場合は、「その他のオプション」ボタン ⋮ をクリックし、次に **Analyze Workload** をクリックすると、ワークロード分析ページでパフォーマンスと容量のグラフを表示できます。System Managerの有効なクレデンシャルをお持ちであれば、System Managerで詳細を確認できます。

ⓘ データ保護（DP）ボリュームについては、ユーザが生成したトラフィックのカウンタ値のみが表示されます。ルート ボリュームはこのページに表示されません。

以下は、「パフォーマンス：全ボリューム」ビューにおける重要な項目の一部です。

- スタイル：FlexVolまたはFlexGroupのいずれか。
- レイテンシ：FlexVolボリュームの場合、これはすべてのI/O要求に対するボリュームの平均応答時間であり、処理あたりのミリ秒単位で表されます。FlexGroupボリュームの場合、これは構成するすべてのボリュームの平均レイテンシです。
- IOPS/TB：ワークロードが消費している総容量（テラバイト単位）に基づいて、1秒あたりに処理される入出力操作の数。このカウンターは、特定のストレージ容量で提供できるパフォーマンスを測定します。
- IOPS：FlexVolボリュームの場合、これはボリュームの1秒あたりの入出力操作数です。FlexGroupボリュームの場合、これは構成するすべてのボリュームのIOPSの合計です。
- MB/s：FlexVolボリュームの場合、これはボリュームのスループットであり、メガバイト/秒で測定されます。FlexGroupボリュームの場合、これは構成するすべてのボリュームのMB/sの合計です。
- 容量フィールド：空き容量と総容量（GiB単位）。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"
- "Unified Managerで監視されるワークロードのタイプ"
- "特定のボリュームまたはLUNに適用されたQoSポリシー グループ設定の表示"
- "Unified Managerによるクラウドへのデータの階層化の推奨について"
- "パフォーマンス グラフを使用した同じQoSポリシー グループ内のボリュームまたはLUNの比較"

パフォーマンス：すべてのアグリゲートビュー

「パフォーマンス：すべてのアグリゲート」ビューには、Unified Manager インスタンスによって監視されている各アグリゲートのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。このページでは、アグリゲートのパフォーマンスを監視したり、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

以下は、パフォーマンス：すべてのアグリゲートビューにおける重要なフィールドの一部です。

- タイプ：アグリゲートの種類：
  - HDD
  - ハイブリッド。HDDとSSDの組み合わせですが、Flash Poolは有効になっていません。
  - ハイブリッド（Flash Pool）。HDDとSSDの組み合わせで、Flash Poolが有効になっています。

- SSD
- SSD（FabricPool）。SSDとクラウド階層の組み合わせです。
- HDD（FabricPool）。HDDとクラウド階層の組み合わせです。
- VMDisk（SDS）。仮想マシン内の仮想ディスクです。
- VMDisk（FabricPool）。仮想ディスクとクラウド階層の組み合わせです。
- LUN

- 非アクティブデータレポート：このアグリゲートで非アクティブデータレポート機能が有効か無効かを示します。有効にすると、このアグリゲート上のボリュームは、「パフォーマンス：すべてのボリューム」ビューにコールドデータの量を表示します。ONTAPのバージョンが非アクティブデータレポートをサポートしていない場合、このフィールドの値は「N/A」になります。
- しきい値ポリシー：このストレージオブジェクトで有効になっている、ユーザー定義のパフォーマンスしきい値ポリシー（または複数のポリシー）。省略記号（…）を含むポリシー名にカーソルを合わせると、ポリシー名全体または割り当て済みのポリシー名の一覧が表示されます。パフォーマンスしきい値ポリシーの割り当てボタンとパフォーマンスしきい値ポリシーのクリアボタンは、一番左にあるチェックボックスをクリックして1つ以上のオブジェクトを選択するまで無効のままです。詳細については、以下のリンクをご覧ください：

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"

パフォーマンス：すべてのノードの表示

「パフォーマンス：すべてのノード」ビューには、Unified Managerのインスタンスによって監視されている各ノードのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、ノードのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

[Flash Cache 読み取り]には、ノードでの読み取り処理のうち、ディスクではなくキャッシュで処理された割合が表示されます。Flash Cacheのデータは、ノードにFlash Cacheモジュールがインストールされている場合にノードについてのみ表示されます。

「レポート」メニューには、「ハードウェアインベントリレポート」オプションが表示されます。これは、Unified Managerおよびそれが管理するクラスタが、外部ネットワーク接続のないサイトにインストールされている場合に利用できます。このボタンをクリックすると、ハードウェアのモデル番号とシリアル番号、ディスクの種類と数、インストールされているライセンスなど、クラスタとノードの完全な情報を含む.csvファイルが生成されます。このレポート機能は、NetApp Active IQプラットフォームに接続されていないセキュアなサイトでの契約更新に役立ちます。オブジェクトインベントリページ上の任意のオブジェクトに対して、「パフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て」ボタンと「パフォーマンスしきい値ポリシーのクリア」ボタンを使用して、パフォーマンスしきい値ポリシーを割り当てたり、しきい値ポリシーをクリアしたりできます。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"
- "契約更新用ハードウェア インベントリ レポートの生成"

パフォーマンス：すべてのストレージVMの表示

「パフォーマンス：すべてのストレージVM」ビューには、Unified Managerインスタンスによって監視されている各ストレージ仮想マシン（SVM）のパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、SVMのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。このページの[レイテンシ]フィールドには、すべてのI/O要求の平均応答時間（ms/op）が報告されます。

このページに表示されるSVMは、データSVMとクラスタSVMだけです。Unified Managerでは、管理SVMとノードSVMが使用されず、表示もされません。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"

パフォーマンス：すべてのLUNの表示

「パフォーマンス：すべてのLUN」ビューには、Unified Managerのインスタンスによって監視されている各LUNのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、LUNのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

特定のオブジェクトのレイテンシとスループットを分析する場合は、詳細アイコン ⋮ をクリックし、次に ワークロードの分析 をクリックすると、ワークロード分析 ページでパフォーマンスと容量のグラフを表示できます。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "整合性グループ関係でのLUNの監視"
- "LUNのプロビジョニング"
- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"
- "同じQoSポリシー グループ内のボリュームまたはLUNの表示"。
- "特定のボリュームまたはLUNに適用されたQoSポリシー グループ設定の表示"
- "APIを使用したLUNのプロビジョニング"

パフォーマンス：すべてのNVMe名前空間の表示

「パフォーマンス：すべてのNVMeネームスペース」ビューには、Unified Managerのインスタンスによって監視されている各NVMeネームスペースのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、ネームスペースのパフォーマンスと健全性を迅速に監視し、問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。

報告される情報には、以下のものなどがあります：ネームスペースの現在の状態。* オフライン - ネームスペースへの読み取りまたは書き込みアクセスは許可されていません。* オンライン - ネームスペースへの読み取りおよび書き込みアクセスが許可されています。* NVFail - NVRAMの障害により、ネームスペースは自動的にオフラインになりました。* スペースエラー - ネームスペースの容量が不足しています。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"

パフォーマンス：すべてのネットワークインターフェイスの表示

「パフォーマンス：すべてのネットワークインターフェイス」ビューには、このUnified Managerインスタンスが監視している各ネットワークインターフェイス（LIF）のパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。このページでは、インターフェースのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。以下は、「パフォーマンス：すべてのネットワークインターフェイス」ビューにおける重要なフィールドの一部です。

- IOPS：1秒あたりの入出力操作数。IOPSはNFS LIFおよびCIFS LIFには適用されず、これらのタイプではN/Aと表示されます。
- レイテンシ：すべてのI/Oリクエストの平均応答時間であり、1操作あたりのミリ秒単位で表されます。レイテンシはNFS LIFおよびCIFS LIFには適用されず、これらのタイプではN/Aと表示されます。
- ホームロケーション：インターフェースのホームロケーション。ノード名とポート名がコロン（：）で区切られて表示されます。ロケーションが省略記号（…）で表示されている場合、ロケーション名の上にカーソルを合わせると、ロケーション全体を表示できます。
- 現在の場所：インターフェースの現在の場所を、ノード名とポート名をコロン（：）で区切って表示します。場所が省略記号（…）で表示されている場合、カーソルを場所名の上に置くと、場所の全文が表示されます。
- 役割：インターフェースの役割：データ、クラスタ、ノード管理、またはクラスタ間。

このページに表示されるインターフェイスには、データLIF、クラスタLIF、ノード管理LIF、クラスタ間LIFがあります。Unified ManagerではシステムLIFが使用されず、表示もされません。

パフォーマンス：全ポート表示

「パフォーマンス：すべてのポート」ビューには、Unified Manager のインスタンスによって監視されている各ポートのパフォーマンスイベント、データ、および構成情報の概要が表示されます。これにより、ポートのパフォーマンスを迅速に監視し、パフォーマンスの問題やしきい値イベントのトラブルシューティングを行うことができます。ポートのロールについては、ネットワーク ポートの役割（「データ」または「クラスタ」）が表示されます。FCPポートには役割を割り当てることはできません。役割はN/Aと表示されます。

パフォーマンス カウンタの値が表示されるのは物理ポートについてのみです。VLANまたはインターフェイス グループについてのカウンタ値は表示されません。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- "ストレージ オブジェクトへのパフォーマンスしきい値ポリシーの割り当て"
- "ストレージ オブジェクトからのパフォーマンスしきい値ポリシーの削除"

パフォーマンス：**QoS** ポリシーグループビュー

[パフォーマンス：QoS ポリシー グループ]ビューには、Unified Managerによって監視されているクラスタで使用可能なQoSポリシー グループが表示されます。これには、従来のQoSポリシー、アダプティブQoSポリ

シー、およびパフォーマンス サービス レベルを使用して割り当てられるQoSポリシーが含まれます。

以下は、「パフォーマンス：QoSポリシーグループ」ビューにおける重要なフィールドの一部です。

- QoSポリシーグループ：QoSポリシーグループの名前。Unified Manager 9.7以降にインポートされたNetApp Service Level Manager（NSLM）1.3ポリシーの場合、ここに表示される名前には、NSLMでパフォーマンスサービスレベルが定義されたときの名前には含まれていないSVM名やその他の情報が含まれます。たとえば、「NSLM_vs6_Performance_2_0」という名前は、SVM「vs6」上に作成されたNSLMシステム定義の「Performance」PSLポリシーであり、想定されるレイテンシが「2 ms/op」であることを意味します。
- SVM：QoSポリシーグループが属するストレージVM（SVM）。ストレージVM名をクリックすると、そのストレージVMの詳細ページに移動できます。QoSポリシーが管理ストレージVM上に作成されている場合、このフィールドは空白になります。これは、このストレージVMタイプがクラスタを表すためです。
- 最小スループット：ポリシーグループが保証する最小スループット（IOPS）。適応型ポリシーの場合、これはストレージオブジェクトに割り当てられたサイズに基づいて、ボリュームまたはLUNに割り当てられたTBあたりの最小期待IOPSです。
- 最大スループット：ポリシーグループが超えてはならないスループット（IOPSおよび/またはMB/s）。このフィールドが空白の場合、ONTAPで定義された最大スループットが無限であることを意味します。適応型ポリシーの場合、これは、割り当てられたストレージオブジェクトのサイズまたは使用されたストレージオブジェクトのサイズに基づいて、ボリュームまたはLUNに割り当てられたTBあたりの最大（ピーク）IOPSです。
- 絶対最小IOPS：アダプティブポリシーの場合、これは期待されるIOPSがこの値よりも低い場合にオーバーライドとして使用される絶対最小IOPS値です。
- ブロックサイズ：QoS適応ポリシーに指定されるブロックサイズ。
- 最小割り当て：最大スループット（ピーク）IOPS を決定するために、「割り当てられたスペース」または「使用されたスペース」のどちらが使用されるか。
- 想定レイテンシ：ストレージの入出力操作における想定平均レイテンシ。
- 共有：従来のQoSポリシーの場合、ポリシーグループで定義されたスループット値が複数のオブジェクト間で共有されるかどうか。
- 関連オブジェクト：QoSポリシーグループに割り当てられているワークロードの数。QoSポリシーグループ名の横にある展開ボタン（⌄）をクリックすると、ポリシーグループの詳細を表示できます。
- 割り当て済み容量：QoSポリシーグループ内のオブジェクトが現在使用しているスペースの量。
- 関連オブジェクト：QoSポリシーグループに割り当てられているワークロードの数。ボリュームとLUNに分けて表示されます。番号をクリックすると、選択したボリュームまたはLUNに関する詳細情報が表示されるページに移動します。

詳細については、"QoSポリシー グループ情報を使用したパフォーマンスの管理"のトピックを参照してください。

パフォーマンスインベントリページのコンテンツを絞り込む

Active IQ Unified Manager でパフォーマンスインベントリページのコンテンツを絞り込む

[パフォーマンス オブジェクト インベントリ]ページには、オブジェクト インベントリ データの内容を絞り込むためのツールが用意されており、データをすばやく簡単に特定

できます。

[パフォーマンス オブジェクト インベントリ]ページに含まれる情報は量が多く、多くの場合、複数のページに及びます。この種の包括的なデータは、パフォーマンスの監視、追跡、改善には非常に役立ちますが、特定のデータにたどり着くには探しているデータをすばやく特定するためのツールが必要です。そのため、[パフォーマンス オブジェクト インベントリ]ページには、検索、ソート、およびフィルタリングの機能が用意されています。検索とフィルタリングを一緒に使用して、結果をさらに絞り込むこともできます。

Active IQ Unified Manager のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでの検索

[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページで文字列を検索できます。ページ右上にある*検索*フィールドを使用すると、オブジェクト名またはポリシー名に基づいてデータをすばやく検索できます。これにより、特定のオブジェクトとその関連データをすばやく検索したり、ポリシーをすばやく検索して関連するポリシーオブジェクトデータを表示したりすることができます。

手順

1. 検索対象に応じて次のどちらかのオプションを実行します。

これを見つけるには...	これを入力してください...
特定のオブジェクト	オブジェクト名を「Search」フィールドに入力し、「Search」をクリックします。検索したオブジェクトとその関連データが表示されます。
ユーザ定義のパフォーマンスしきい値ポリシー	「検索」フィールドにポリシー名の全部または一部を入力し、「検索」をクリックします。検索したポリシーに割り当てられているオブジェクトが表示されます。

Active IQ Unified Manager のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでデータを並べ替える

[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページでは、任意の列を基準に昇順または降順ですべてのデータをソートできます。オブジェクト インベントリ データをすばやく特定できるため、パフォーマンスの調査時やトラブルシューティングの開始時に役立ちます。

ソート用に選択した列は列見出しが強調表示され、ソート方向を示す矢印アイコンが見出しの右側に表示されます。上向き矢印は昇順、下向き矢印は降順を示します。デフォルトの並べ替え順序は、ステータス（イベントの重要度）の降順で、最も重要なパフォーマンスイベントが最初に表示されます。

手順

1. 列名をクリックすると、昇順または降順で列のソート順序を切り替えることができます。

   [オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページの内容は、選択した列を基準に昇順または降順でソートされます。

Active IQ Unified Manager のオブジェクトインベントリパフォーマンスページでデータをフィルタリングする

[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページでデータをフィルタリングし、特定の条件に基づいてデータをすばやく特定できます。フィルタリングを使用すると、[オブジェクト インベントリ パフォーマンス]ページの内容を絞り込んで、指定した結果だけを表示できます。そのため、関心のあるパフォーマンス データだけを効率的に表示できます。

[フィルタ]パネルを使用して、グリッド ビューをカスタマイズできます。使用可能なフィルタ オプションは、グリッドで表示しているオブジェクト タイプによって異なります。現在フィルターが適用されている場合、適用されているフィルターの数がフィルターボタンの右側に表示されます。

次の3種類のフィルタ パラメータがサポートされています。

パラメータ	検証
文字列（テキスト）	演算子は、含む、で始まる、で終わる、*含まない*です。
数値	演算子は、**greater than**、**less than**、**in the last**、**between** です。
列挙（テキスト）	演算子は「is」と「is not」です。

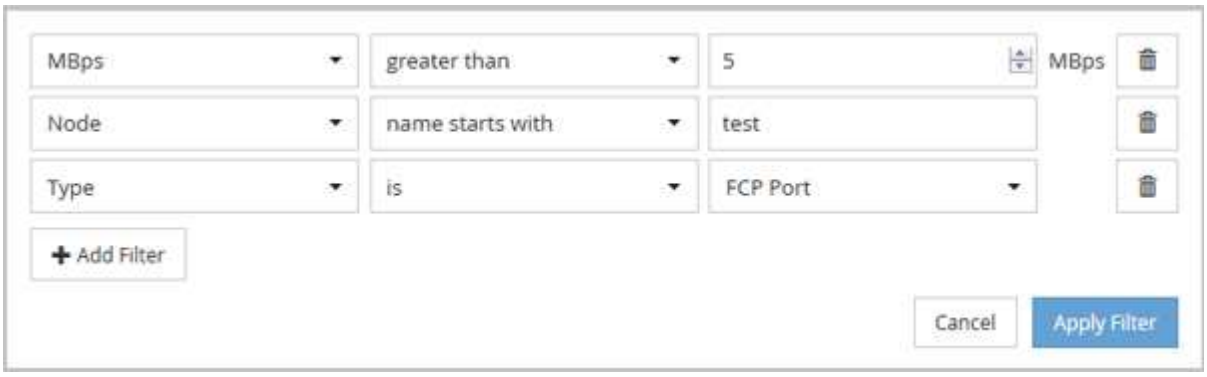
それぞれのフィルタに、[列]、[演算子]、[値]の各フィールドが必要です。使用可能なフィルタは、現在のページのフィルタ可能な列に基づいて決まります。適用できるフィルタは4つまでです。フィルタ パラメータの組み合わせに基づいてフィルタされた結果が表示されます。フィルタされた結果は、現在表示しているページだけでなく、フィルタで検索するすべてのページに適用されます。

フィルタは[フィルタ]パネルで追加できます。

1. ページ上部の「フィルター」ボタンをクリックします。フィルタリングパネルが表示されます。
2. 左側のドロップダウンリストをクリックしてオブジェクトを選択します。たとえば、*Cluster* やパフォーマンスカウンターなどです。
3. 中央のドロップダウン リストをクリックし、使用する演算子を選択します。
4. 最後のリストで、値を選択または入力してそのオブジェクトのフィルタを完成させます。
5. 別のフィルターを追加するには、「+Add Filter」をクリックしてください。追加のフィルターフィールドが表示されます。前述の手順に従って、このフィルターを完成させてください。4つ目のフィルターを追加すると、「+Add Filter」ボタンが表示されなくなることに注意してください。
6. *フィルターを適用*をクリックします。フィルターオプションがグリッドに適用され、フィルターの数がフィルターボタンの右側に表示されます。
7. 個々のフィルタを削除するには、[フィルタ]パネルで、削除するフィルタの右にあるごみ箱のアイコンをクリックします。
8. すべてのフィルターを解除するには、フィルタリングパネルの下部にある「Reset」をクリックしてください。

フィルタリングの例

この図は、3つのフィルターが表示されたフィルタリングパネルを示しています。「+Add Filter」ボタンは、フィルターの数が最大4つ未満の場合に表示されます。



*「フィルターを適用」*をクリックすると、フィルターパネルが閉じ、フィルターが適用され、適用されたフィルターの数が表示されます（ 3 ）。

Active IQ Unified Manager のクラウドへのデータ階層化に関する推奨事項を確認する

「パフォーマンス：すべてのボリューム」ビューには、非アクティブ（コールド）ボリュームに保存されているユーザーデータのサイズに関する情報が表示されます。場合によっては、Unified Manager は、FabricPool対応アグリゲートのクラウド層（クラウドプロバイダまたは StorageGRID）に非アクティブなデータを階層化することでメリットが得られる特定のボリュームを特定します。

FabricPoolはONTAP 9.2で導入されたため、9.2より前のバージョンのONTAPソフトウェアを使用している場合、データを階層化するというUnified Managerの推奨事項を実行するには、ONTAPソフトウェアをアップグレードする必要があります。さらに、 `**auto**`階層化ポリシーはONTAP 9.4で導入され、 `**all**`階層化ポリシーはONTAP 9.6で導入されたため、自動階層化ポリシーの使用が推奨される場合は、ONTAP 9.4以降にアップグレードする必要があります。

「パフォーマンス：すべてのボリューム」ビューの次の 3 つのフィールドには、非アクティブなデータをクラウド層に移動することで、ストレージシステムのディスク使用率を向上させ、パフォーマンス層の容量を節約できるかどうかに関する情報が表示されます。

- 階層化ポリシー

  階層化ポリシーによって、ボリュームのデータを高パフォーマンス階層に残すか、あるいは一部のデータをパフォーマンス階層からクラウド階層に移動するかが決まります。

  このフィールドには、ボリュームに対して設定されている階層化ポリシーが、ボリュームが現在FabricPoolアグリゲートにない場合も含めて表示されます。階層化ポリシーが適用されるのは、ボリュームがFabricPoolアグリゲートにある場合のみです。

- コールドデータ

ボリュームに格納されているアクセス頻度の低いユーザ データ（コールド データ）のサイズが表示されます。

ここに値が表示されるのは、ONTAP 9.4以降のソフトウェアを使用している場合のみです。これは、ボリュームが導入されているアグリゲートの **`inactive data reporting parameter`**が **`enabled`**に設定されており、かつ（ **`snapshot-only`**または **`auto`**の階層化ポリシーを使用するボリュームについて）冷却日数の最小しきい値が満たされている必要があるためです。それ以外の場合、値は「`N/A`」と表示されます。

- クラウドの推奨事項

  ボリューム上のデータアクティビティに関する十分な情報が収集されると、Unified Manager は、特にアクションは不要である、または非アクティブなデータをクラウド層に階層化することでパフォーマンス層の容量を節約できると判断する場合があります。

> [コールド データ]フィールドは15分ごとに更新されますが、[クラウドに関する推奨事項]フィールドは7日ごと（ボリューム上でコールド データ分析が実行されるとき）に更新されます。そのため、コールド データの正確な量はフィールド間で異なる可能性があります。[クラウドに関する推奨事項]フィールドには、分析が実行された日付が表示されます。

非アクティブデータレポートが有効になっている場合、「コールドデータ」フィールドには非アクティブデータの正確な量が表示されます。非アクティブデータ報告機能がない場合、Active IQ Unified Manager はパフォーマンス統計を使用して、ボリューム上のデータが非アクティブかどうかを判断します。この場合、非アクティブデータの量は「コールドデータ」フィールドには表示されませんが、カーソルを「**Tier**」という単語の上に置くと、クラウドの推奨事項が表示されます。

クラウドに関する推奨事項には、次のいずれかが表示されます。

- 学習中。推奨を行うには、収集されたデータが不足しています。
- ティア。分析の結果、アクセス頻度の低いコールド データがボリュームにあり、そのデータをクラウド階層に移動するようにボリュームを設定することが推奨されます。一部のケースでは、ボリュームをまずFabricPool対応アグリゲートに移動する必要があります。ボリュームがすでに FabricPool アグリゲート上にある場合は、階層化ポリシーを変更するだけで済みます。
- アクションなし。ボリュームに非アクティブなデータがほとんどないか、ボリュームが既に FabricPool アグリゲートの「`auto`」階層化ポリシーに設定されているか、またはボリュームがデータ保護ボリュームです。この値は、ボリュームがオフラインの場合、または MetroCluster 構成で使用されている場合にも表示されます。

ボリュームを移動する場合、ボリュームの階層化ポリシーまたはアグリゲートの非アクティブデータレポート設定を変更する場合は、ONTAP System Manager、ONTAP CLI コマンド、またはこれらのツールの組み合わせを使用してください。

アプリケーション管理者またはストレージ管理者の役割で Unified Manager にログインしている場合、カーソルを **Tier** という単語の上に置くと、クラウドの推奨事項に **Configure Volume** リンクが表示されます。このボタンをクリックすると、System Manager のボリュームページが開き、推奨される変更を行うことができます。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。